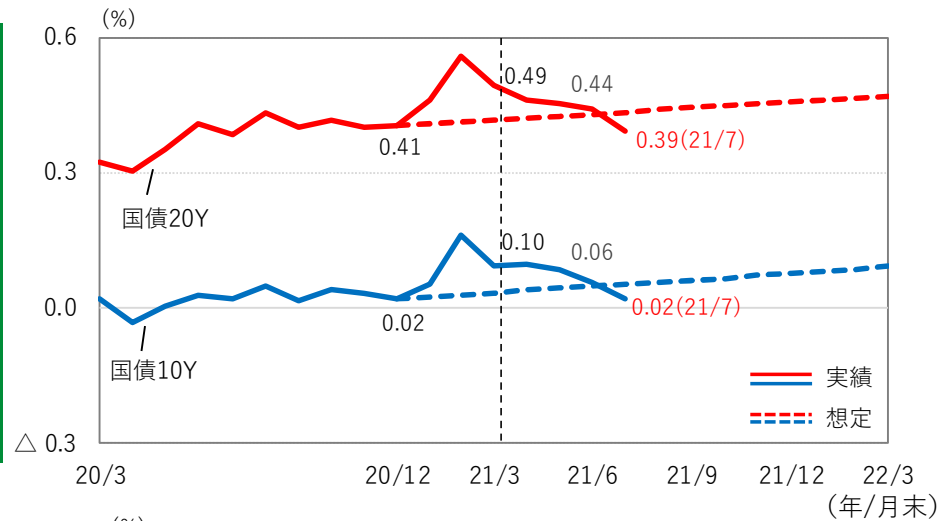


業績予想の前提条件

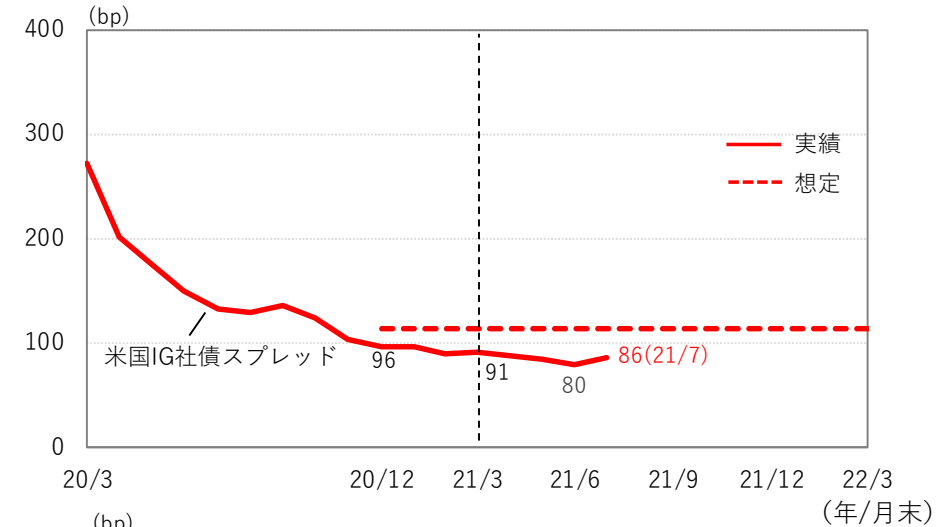
- 内外金利については、2020年12月末時点のインプライド・フォワード・レートに沿って推移すると想定。
- 海外のクレジットスプレッドについては、概ね2020年12月末の水準で安定的に推移すると想定。

金利等の想定と実績

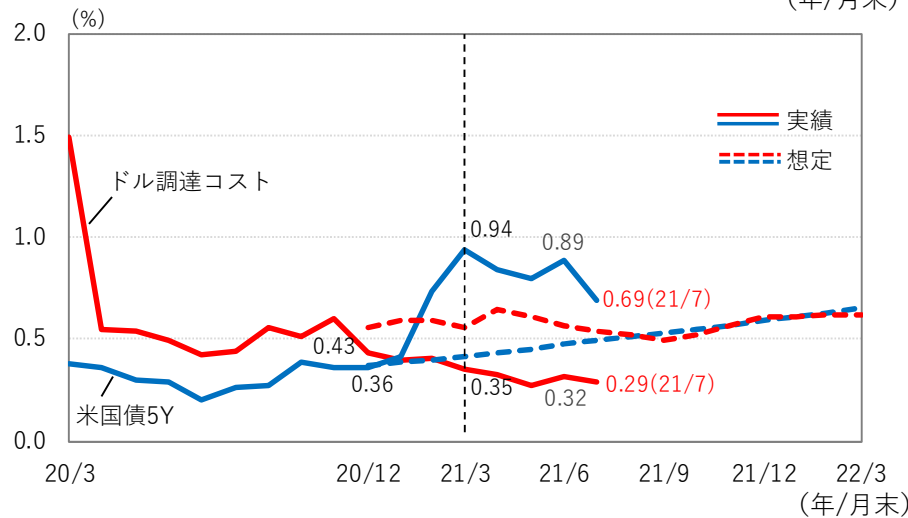
円金利



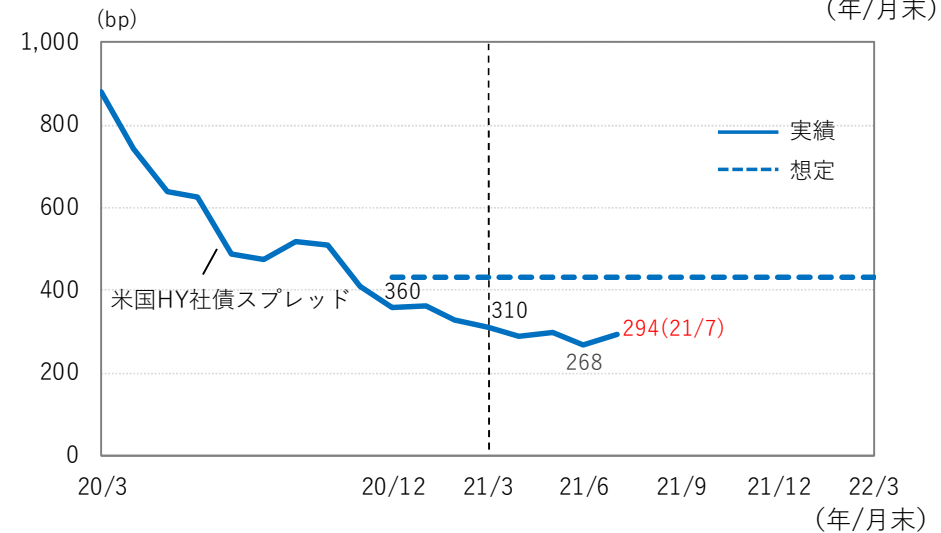
米国IG社債スプレッド



米金利／ドル調達コスト



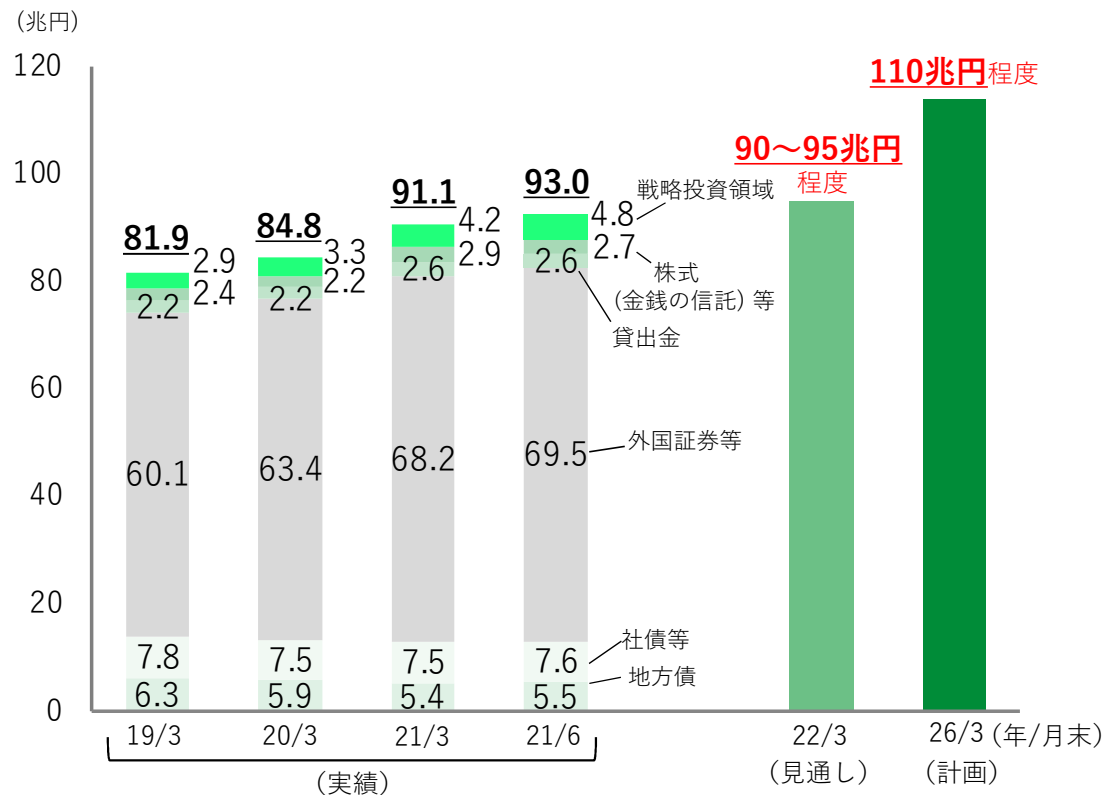
米国HY社債スプレッド



運用計画

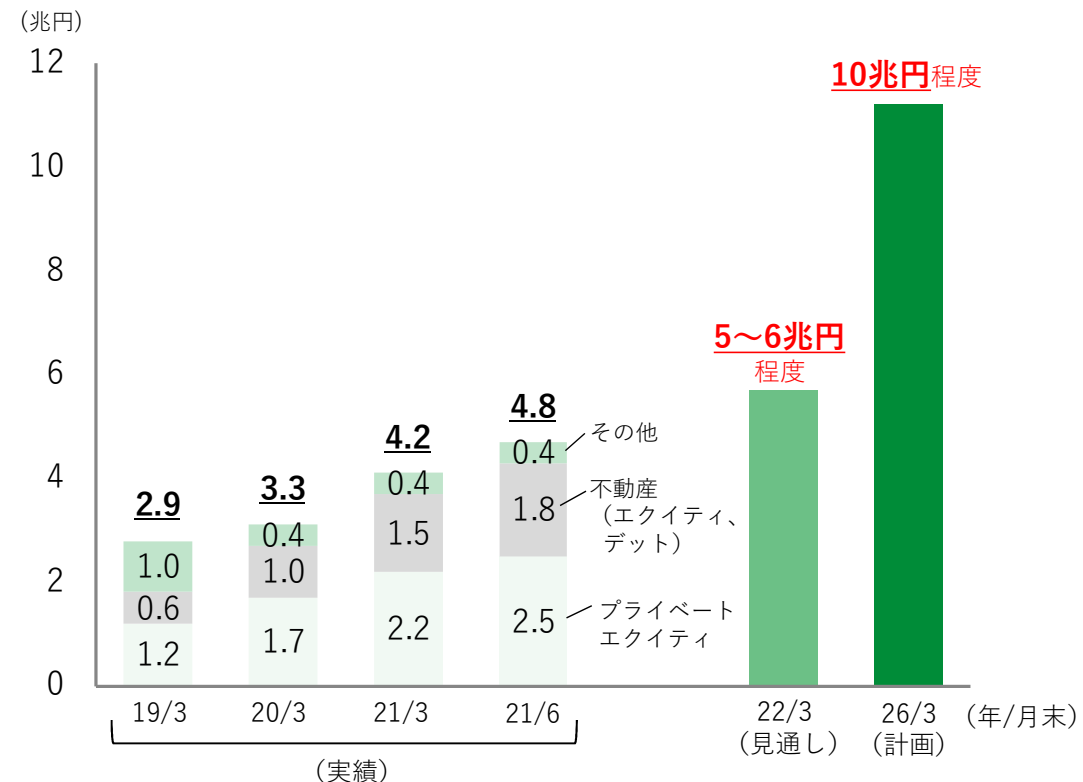
- 低金利環境が継続する中、投資適格（IG）領域を中心にリスク性資産残高※1を積み上げるとともに、リスク性資産のうち戦略投資領域※2については、選別的に投資を進め、安定的な基幹収益の確保に努める。
- 2021年度は、リスク性資産残高：90～95兆円程度、戦略投資領域残高：5～6兆円程度を目指す。

リスク性資産残高



※1 リスク性資産：円金利（国債等）以外の資産

戦略投資領域残高



※2 戦略投資領域：オルタナティブ資産（プライベートエクイティファンド、不動産ファンド（エクイティ）等）、不動産ファンド（デット）、ダイレクトレンディングファンド、インフラデットファンド等